

様式第1

ばい煙発生施設設置 ~~(使用、変更)~~ 届出書

令和〇年 〇月 〇日

富山県知事 〇〇 〇〇 殿

(〒〇〇〇-〇〇〇〇)

氏名又は名称及び住所 〇〇県〇〇市〇〇 〇番地

届出者 並びに法人にあつては 株式会社〇〇

その代表者の氏名 代表取締役 〇〇 〇〇

該当するもの以外は、取り消し線を入れる。

代表者の氏名等を記入する。  
(代表権のない者(例えば工場長等)が届出する場合は、委任状の添付が必要)

大気汚染防止法第6条第1項 ~~(第7条第1項、第8条第1項)~~の規定により、  
ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	株式会社〇〇 〇〇工場	※ 整理番号	
(〒) 工場又は事業場の所在地	(〇〇〇-〇〇〇〇) 〇〇市〇〇 〇丁目〇番	※ 受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	1項 ボイラー 1基	※ 施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。	※ 審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※ 備考	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。		

ばい煙発生施設の設置場所を記入する。

大気汚染防止法施行令別表第1の上欄の番号、施設種類、及び設置基数を記入する。

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		A - 1	
名称及び型式		㈱〇〇製 貫流ボイラー △△△型	
設置年月日		年月日	年月日
着手予定年月日		令和2年 4月 1日	年月日
使用開始予定年月日		令和2年 4月 6日	年月日
規	伝熱面積 (m <sup>2</sup> )	10.0 m <sup>2</sup>	
	燃料の燃焼能力 (重油換算 l/h)	100 l/h	
	原料の処理能力 (t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m <sup>2</sup> )		
	変圧器の定格容量 (KVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)		
	焼却能力 (kg/h)		
模	乾燥施設の容量 (m <sup>3</sup> )		
	電流量 (KA)		
	ポンプの動力 (KW)		
	合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)		

施設の種類によって、その届出要件に該当する規模の種類について、その値を記入する。  
 例) ボイラー : 伝熱面積 及び 燃料の燃焼能力  
 溶解炉 : 火格子面積、羽口面断面積、燃料の燃焼能力、変圧器の定格容量

燃料が

①液体の場合  
 " l/h " で記入する。

②ガスまたは固体の場合  
 " m<sup>3</sup>/h " または " kg/h " で記入し、重油換算した値を括弧内に記入する。  
 例) 80 m<sup>3</sup>/h ( 50 l/h )

(参考) 重油換算  
 液体燃料 10 l、ガス燃料 16 m<sup>3</sup>、固体燃料 16 kg が重油 10 l に相当する。

なお、ガス機関については次の換算式によること。  
 重油換算量 (l/h) = 換算係数 × 気体燃料の燃焼能力 (m<sup>3</sup>N/h)  
 換算係数 = 気体燃料の発熱量 (kcal/m<sup>3</sup>N) / 重油発熱量 (kcal/l)  
 ただし、上式の気体燃料の発熱量は総発熱量(高位)を用いることとし、  
 重油の発熱量は 9,600 kcal/l とすること。

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格 A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用方法

工場又は事業場における施設番号		A - 1					
使用状況	1日の使用時間及び 月使用日数等	9時～17時 8時間/回 1回/日 20日/月			時～時 時間/回 回/日 日/月		
	季節変動	無					
原材料 (ばい煙の発生に 影響のあるものに 限る。)	種類						
	使用割合						
	原材料中の成分割合 (%)	いおう分 カドミ ウム分	鉛分 弗素分	いおう分 カドミ ウム分	鉛分 弗素分		
1日の使用量							
燃料又 は電力	種類	灯油					
	燃料中の成分割合 (%)	灰分 0.01 %	いおう分 0.008 %	窒素分 0.1 %	灰分	いおう分	窒素分
	発熱量	46.290 MJ/kg					
	通常の使用量	80 ℓ / h					
	混焼割合	専焼					
排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	湿り	最大 1522	通常 1217	最大	通常		
	乾き	最大 1364	通常 1091	最大	通常		
排出ガス温度 (°C)		110					
排出ガス中の酸素濃度 (%)		4					
ばい煙 の濃度	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	最大 0.02	通常 0.016	最大	通常		
	いおう酸化物 (容量比 ppm)	最大 0.30	通常 0.24	最大	通常		
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常		
	塩素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常		
	塩化水素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常		
	鉛及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	最大	通常	最大	通常		
窒素酸化物 (容量比 ppm)	最大 150	通常 120	最大	通常			
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大 0.0005	通常 0.0004	最大	通常		
参考事項							

A 重油、C 重油、LPG、都市ガス、電力など具体的に記入する。

分析表の値をそのまま記入するのではなく、最大値（保証値）を記入する。

高位発熱量を記入する。

「最大」は施設を定格で運転させた場合の数値を、「通常」は平均的な運転状況の場合の数値を記入する。（以下、同様。）

排出基準が適用される項目について記入する。

- 備考
- 1 原材料中の成分割合 (%) の欄及び燃料中の成分割合 (%) の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
  - 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
  - 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
  - 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載すること。

処理施設がない場合  
(煙突のみ) の記載例

処理施設がある場合の  
記載例

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		煙突		B - 1	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		A - 1		A - 1	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		—		バグフィルタ ○○型	
設置年月日		年 月 日		年 月 日	
着手予定年月日		令和2年 4月 1日		令和2年 4月 1日	
使用開始予定年月日		令和2年 4月 6日		令和2年 4月 6日	
処理能力	排出ガス量 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大			1522
		通常			1217
	排出ガス温度 (°C)	処理前			200
		処理後			110
	ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> )	処理前			2
		処理後			0.02
	いおう酸化物 (容量比 ppm)	処理前			
		処理後			
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前			
		処理後			
	塩素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前			
		処理後			
	塩化水素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前			
		処理後			
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前			
		処理後			
	鉛及びその化合物 (mg/Nm <sup>3</sup> )	処理前			
		処理後			
	窒素酸化物 (容量比 ppm)	処理前			
		処理後			
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm <sup>3</sup> /h)	最大	処理前		
			処理後		
		通常	処理前		
			処理後		
捕集効率 (%)	ばいじん				99
	いおう酸化物				
	カドミウム及びその化合物				
	塩素				
	塩化水素				
	弗素、弗化水素及び弗化珪素				
	鉛及びその化合物				
	窒素酸化物				
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		時~時 時間/回 回/日 日/月	9時~17時 8時間/回 1回/日 20日/月	
	季節変動				無
排出口の実高さ H <sub>o</sub> (m)		15.2 (内径φ562)		20 (角型0.4m×0.6m)	
補正された排出口の高さ H <sub>e</sub> (m)		15.8		20	
排出速度 (m/s)		2.4		2.4	

サイクロン、バグフィルタ、スクラバなどを記入する。

処理施設がある場合のみ、処理する項目について、処理前後の値と捕集効率を記入する。

地面から排出口の下端までの長さ、及び排出口の寸法（内径）を記入する。

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。  
 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。  
 3 補正された排出口の高さ H<sub>e</sub> は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。  
 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

【その他の添付書類】

	チェック欄
① ばい煙発生施設の構造及び寸法を記入した概要図	
② ばい煙発生施設の規模についての書類 伝熱面積、燃料の焼却能力など、届出要件に係る規模が確認できる カタログ、仕様書など。	
③ ばい煙処理施設の構造及び寸法を記入した概要図（煙突のみの場合、 その概要図） 排出口の高さ、口径、陣笠の有無が確認できるもの。 ばい煙処理施設がある場合は、能力（排风量、捕集効率など）を記 載したカタログ、仕様書なども併せて添付する。	
④ 工場又は事業場の周辺の地図	
⑤ 工場又は事業場内の施設の配置図 ばい煙発生施設、ばい煙処理施設、煙道、煙突の位置が分かるもの。	
⑥ 排ガス測定孔の設置箇所を示した図面 測定孔から床面までの高さを記載する。	
⑦ ばい煙等の計算書 ばい煙量が、K 値から算出される排出基準を下回っていることが確 認できるもの。	
⑧ ばいじん、窒素酸化物などの濃度の根拠書類 保証書、カタログなど	
⑨ 原料・燃料の成分表	
⑩ 緊急連絡用の電話番号その他緊急時における連絡方法	